

農 福  
×  
連 携

## うさファーム (大津市羽栗)

### ○うさファームってどんなところ？

おおつし  
大津市にある「うさファーム」は、いちご (11a) を中心に、すいとろ 水稻、けんぼく 小麦、原木シイタケ、ニンニクなどを栽培されています。

代表の宮崎さんは、もともと食品会社に勤めていらっしゃいましたが、勤務されていた事業所の東京移転をきっかけに以前から興味のあった農業に取り組むことを決意され、48歳で退職、滋賀県立農業大学校の就農科で1年間学ばれた後に就農され、現在7年目になります。



みやざき よしふみ  
代表 宮崎 佳文さん

### ○農福連携を始めたきっかけと取組の内容

のうふくれんけい  
宮崎さんが就農1年目の時に、以前勤めていた会社の先輩で、現在は「社会福祉法人ミッションからだね」(就労継続支援A、B型)の指導員である杉野さんしんのから、仕事を依頼してもらえないかという相談を受けたことがきっかけだそうです。最初は何をお願いできるのかわからずためらっていた宮崎さんですが、まずはやってみようと思い、「これをやってもらって大丈夫かな？」と悩むことがあるたびに杉野さんに相談し、しこうさくご 試行錯誤しながら取組を進めてこられました。

現在は週2回、2時間ずつ、実習生の方2名と指導員の方1名に、いちごの脇芽や葉っぱ取り、摘花、ハウスの掃除をお願いされています。また水稻栽培では、あぜぬり 畔塗やもみ 稲刈り後の籾運びなど、力の必要な作業も依頼されているそうです。



### ○工夫していること

宮崎さんは、実習生の方が日々達成感を感じられるよう、作業に来ていただいている2時間以内に終わる仕事を依頼されています。また、仕事内容についても、実習生の方と一緒に作業に取り組む中で、体力や手先の器用さを把握し、実習生の方が必ずできることをお願いするよう考えておられるそうです。さらに、実習生の方に収穫したいちごやシイタケ、お米をお渡しし、手伝っていただいたことへの感謝の気持ちを伝えることで、収穫の喜びを感じ、うさファームで作業をするのは楽しいと思っただけできるよう工夫されています。

## ○のうふくれんけい農福連携に取り組んで自分自身が変わったこと

取組を始めた当初は、周囲の方の目が気になったり、困ったことが起こった時どうしようと不安もあったそうです。しかし、取組を始めると、実習生の方と働くことは、障害のない人と働くことと何ら変わりなく、自分の考えが間違っていたと気づかれたそうです。

宮崎さんは、「これまでに、うちでの仕事を経て一般就労された方が何名かおられ、トレーニングの場としてお役に立てたことをうれしく思っています。私自身も実習生の方に大変助けていただいているので、今後も楽しく作業していただける環境を提供し、取組を続けていきたいです。」とおっしゃっていました。

## ○農福連携を検討している農業者の方へ ～宮崎さんからのメッセージ～

作業いただく方ができることを考えて、ばくぜん漠然とした作業ではなく、具体的な作業をお願いすれば、しっかり取り組んでいただけます。作業内容を作業いただく方自身に考えていただいたり、未経験の方に高度な技術が必要な作業をお願いすると、農福連携は長続きしないと思います。農業者のお願いに対し、作業いただく方が取り組むことができるよう、内容を調整していただいている指導員の方の力は絶大です。

作業いただく方に日々満足感を感じていただくことを意識して、農福連携を始めるとよいと思います。農福連携の取組を通して、お互いに充実感を得ることで、私自身ありがたさと幸せを感じています。

## 県内の農福連携の取組を 動画でご覧いただけます！！



滋賀の農福

検索

発行：滋賀県農政水産部農業経営課  
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目 1-1  
TEL:077-528-3831  
E-mail:noufuku@pref.shiga.lg.jp

## ○「ミッションからしだね」の皆さんへのインタビュー

「ミッションからしだね」の実習生の藤原さんは、ふじわら「作業をしながらいちごの成長を見られることに喜びを感じています。また、自分が栽培を手伝ったいちごを食べた方が『おいしい！』と言ってくださるのを見ると、とてもやりがいを感じます。ここでの作業を始めてから、体力の必要性を感じ、トレーニングジムに通ったり、ウォーキングやサイクリングなどをして、体力づくりに取り組むようになりました。」と、お話しくださいました。



ふじわら  
実習生 藤原さん

すぎの  
支援員 杉野さん

支援員の杉野さんは、「『障害』を意味する英単語の一つに『ディスオーダーdisorder』があり、これは『一つの規格ではない』という意味をふく含んでいます。農業者の方はよくご存じでしょうが、農作物を生産すると規格外のものが出てきます。私はそういった多様なものが出てくるのが自然であり、豊かさだと思っています。障害のある方と働くことは、その豊かさにつながると思っていますので、ぜひ農業者の方に農福連携に取り組んでいただき、ご自身の生産活動を多様性のある、より豊かなものとしていただけたらと思います。」と、農福連携への思いを語ってくださいました。

データ  
DATA

【組織名】 うさファーム

【所在地】 大津市羽栗一丁目 13